

## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	1
1. 人文学部	3
2. 人文社会科学研究科	5
3. 教育学部	7
4. 教育学研究科	10
5. 教職実践高度化専攻	13
6. 医学部	16
7. 医学系研究科	18
8. 工学部	21
9. 工学研究科	23
10. 生物資源学部	25
11. 生物資源学研究科	28
12. 地域イノベーション学研究科	31

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。



## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況		教育成果の状況	
	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
人文学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
人文社会科学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教育学部	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある
教育学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教職実践高度化専攻	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
医学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
医学系研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
工学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
工学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
生物資源学部	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある
生物資源学研究科	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある
地域イノベーション学 研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある



## 1. 人文学部

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 4 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 4 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 人文学部の履修指導は、学部又は学科が、それとして行うものだけでなく、教員個人が学生個人と対面して行うものがある。文化学科では3年次に、法律経済学科では2年次後期から、卒業論文を指導する教員が指導教員となるが、1年次及び2年次においても担任を決め履修指導を行う。特に、各学生への教員による成績通知書の手交、つまり、前期及び後期の成績通知書配付は、履修上のガイダンスを行う機会であるだけでなく、履修指導又は学習相談を各教員が個別の学生に、履修状況を踏まえて積極的に行う機会でもある。このような仕組みを設けている目的は、教員が、学生から相談を受けたときだけではなく、諸般の理由から教員に積極的に相談を行うことができない学生への配慮も含めて、定期的に学生の学習及び生活の状況を把握すべきであるという考え方に基づく。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

## 2. 人文社会科学研究科

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 6 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 6 )

**分析項目Ⅰ 教育活動の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

教育活動の基本的な質を実現している。

**分析項目Ⅱ 教育成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。



### 3. 教育学部

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 8 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 9 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

### 〔判定〕 高い質にある

#### 〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

教職に関する模擬授業練習や体育・音楽の実技練習等を計 171 回実施し、この活動に 7 回以上参加した学生の約 9 割が教員採用試験に合格している。また、職業意識を高めるための教育的支援や就職に役立つような学習に対する支援に対して満足と回答した学生の割合は、年々向上し平成 30 年度には 87.0%となっている。

#### 〔優れた点〕

- 令和元年度は、教職に関する模擬授業練習や体育・音楽の実技練習等を計 171 回実施し、延べ約 3,800 名の学生が参加した。この活動に 7 回以上参加した学生の約 9 割が教員採用試験に合格するなど高い効果を確認している。

#### 〔特色ある点〕

- 学生が国外に行き学ぶ授業「海外教育実地研究」もカリキュラムに位置付け、外国語（英語）による授業科目「早期英語教育論」を開設するなど、地域課題や現代的な教育課題を解決する力量を育成してきた。
- 「職業意識を高めるための教育的支援や就職に役立つような学習に対する支援」に対して満足と回答した学生の割合は、平成 28 年度から平成 30 年度において 82.3%、84.9%、87.0%と年々向上しており、高い評価を維持できていることを確認している。
- 当該地域の学校教育に貢献する高い意志を有する学生が入学してきている実績に加え、当該地域の教育事情を考慮した教育能力を育成するためのカリキュラムを構築する教員養成研究も並行して行っている。
- 連携活動に携わった学生が、卒業後、隣接校区の教員として着任し（現在 20 名以上）、教員として連携活動に取り組む好循環が生まれている。

**分析項目Ⅱ 教育成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

#### 4. 教育学研究科

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況	……………	11 )
( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況	……………	12 )

**分析項目Ⅰ 教育活動の状況****〔判定〕 相応の質にある****〔判断理由〕**

下記に示す改善を要する点があるものの、教育活動の基本的な質を実現している。

**〔優れた点〕**

- 教職実践高度化専攻の立ち上げに伴い、三重県教育委員会派遣の現職教員学生の入学定員（内地留学生：10名）が、教育科学専攻から教職実践高度化専攻へと移った。しかしながら、小中学校現場の現職教員から「教科の専門的な力をつけたい」「教具・教材の開発力を身につけたい」等の教科教育や教科内容に関わる要望があり、現職教員を対象とした働きながら学べる大学院として、教育科学専攻内に教職実践コースを設けた。実際、平成28年度入学者は0名であったものの、平成29年度以降は5名（平成29年度）、6名（平成30年度）、3名（令和元年度）が入学しており、これらの数値は換言すれば、現在の教育科学専攻が現職教員にとって魅力ある専攻の証左でもある。

**〔特色ある点〕**

- 「学生と教員が語る会」と称して教職大学院の院生から授業に対する要望・意見の聞き取りを行っている。主な内容としては、授業における専門知識の提供、授業の計画性、グループワーク、レポート、2年間のスケジュールについての要望や課題の指摘であり、それらを踏まえて授業や年間計画の見直しを行っている。
- 令和元年度より市町教育委員会と共同で、英語のリスニング・スピーキング能力の育成や、小学校における外国語・外国語活動の指導及び指導教材の開発、そしてプログラミングを中心としたICT教育の指導システム開発の研究を開始することとなった。

**〔改善を要する点〕**

- 専門職大学院教職実践高度化専攻の履修科目として登録することができる単位数の上限が定められていない。

**分析項目Ⅱ 教育成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

## 5. 教職実践高度化専攻

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 14 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 15 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

### 〔判定〕 相応の質にある

### 〔判断理由〕

下記に示す改善を要する点があるものの、教育活動の基本的な質を実現している。

### 〔特色ある点〕

- 平成 29 年度から設置された教職大学院では、三重県における学校を変える推進者としてのスクールリーダーの育成と、将来的に地域教育を支えるミドルリーダーとなる資質・力量のある新人教員を養成するために、共通科目と選択科目に加えて、「地域の教育課題解決演習」と「課題発見・解決実習（長期実習）」を中核（コア）科目として設定し、「理論と実践の融合・往還」によって、地域の様々なニーズに応える授業科目と指導体制の充実を実現している。
- 「学生と教員が語る会」と称して教職大学院の院生から授業に対する要望・意見の聞き取りを行っている。主な内容としては、授業における専門知識の提供、授業の計画性、グループワーク、レポート、2年間のスケジュールについての要望や課題の指摘であり、それらを踏まえて授業や年間計画の見直しを行っている。
- 令和元年度より市町教育委員会と共同で、英語のリスニング・スピーキング能力の育成や、小学校における外国語・外国語活動の指導及び指導教材の開発、そしてプログラミングを中心とした ICT 教育の指導システム開発の研究を開始することとなった。

### 〔改善を要する点〕

- 専門職大学院教職実践高度化専攻の履修科目として登録することができる単位数の上限が定められていない。



**分析項目Ⅱ 教育成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

**〔特色ある点〕**

- 教職大学院では、修了時に修了生から意見聴取し、公表している。これに基づけば、いずれの修了生も研究科での学びに好意的な回答があった。

## 6. 医学部

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 17 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 17 )

**分析項目Ⅰ 教育活動の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

教育活動の基本的な質を実現している。

**〔特色ある点〕**

- 学生と教員がともに参加する医学教育をテーマにしたワークショップ型研修会である「医学教育について語る会」を年3回（医学科第1、3、5学年それぞれが学年ごとに全員が参加）実施し、授業やカリキュラム、教育方法について学生同士、学生と教員とが議論する場を設けている。

**分析項目Ⅱ 教育成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

## 7. 医学系研究科

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 ..... 19 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 ..... 20 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

### 〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

### 〔特色ある点〕

- Moodle を用いたオンライン授業・学習指導を推進するため、令和元年度より Moodle3.5 を介した遠隔講義を検討し、令和2年度の講義より導入する等、Moodle を活用した新たな授業形態を実施している。
- 平成30年度より他大学と共同で mooc (massive open online course) を活用したオンライン講義の実施に向けた準備を行うとともに、mooc 活用促進につながる文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムへの応募を行った。オンライン講義等への活用に向け、具体的なソフト面の作成を引き続き行っている。
- 平成30年度より、受験生に対し出願動機を含めた入試広報にかかるアンケートを実施し、大学院委員会でのアンケート結果の分析を基に入学試験説明会を開催するなど、次年度以降の入試広報に活用して志願者の確保に取り組んでいる。
- 学生の声をカリキュラム、教育改善等に反映させるため、平成28年度より「大学院委員会と学生との懇談会」を毎年開催している。懇談会での意見交換を基に、講義（座学）中心から演習を充実したカリキュラムへの見直し、アクティブラーニングの推進等が図られている。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 3年ごとに全学的に卒業生・修了生・事業所へのアンケートを実施している。アンケート結果では、大学院生は「教育全般」や「日常的な研究指導」、「学位論文指導」について、6段階評定で平均値 4.5 点（「やや満足」～「満足」の間にあたる）以上と非常に高いことが示された。また、「人によっていろいろな意見を持っているという多様性を理解する力」や「他者に対する柔軟性や他者との調整力」、「専門知識や技術」が三重大学大学院での教育や研究によって身についたと感じている学生が 90%を超えている。医学系研究科では、教育の質の向上を目的に、この結果について共有し、教育方針の見直し等に活用している。

## 8. 工学部

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 ..... 22 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 ..... 22 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- すべての学科（コース）において、インターシップを卒業要件化し、インターシップを未履修での卒業を不可とした（平成 31 年 4 月）。
- 情報工学科（コース）では、専門教育の一環として、国際的にも広く認知されているプログラミングコンテスト ICPC（International Collegiate Programming Contest）の国内予選に学生の参加を奨励し、プログラミング技術の習得度の客観的評価と向上を目指している。このコンテストには国内の主要な国立大学を含む多くの情報系学科の学生が参加している。平成 27 年度から令和元年度まで 5 年連続で国内予選を突破し、アジア地区予選に進出している。平成 29 年度からは情報工学科より参加旅費の補助を行っている。プログラミングコンテストでの成果が勉学や卒業研究に対する一つの動機付けにもなっている。
- 建築学科 4 年生対象の「建築企画設計」において、建築学の各専門分野における学習の成果を基礎として、これらを自らの将来の実務を想定した課題に応用する実践教育（実地訓練）の位置づけで、自ら企画をたてて建築作品を設計している。作品は、本学科主催で三重県立美術館において開催している建築展を通じて、広く市民に公開しており、このことで学生がより実践的に取り組む意欲を高める効果を期待している。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。



## 9. 工学研究科

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 ..... 24 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 ..... 24 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 専攻の枠組みを超えた境界領域の教育を促進する目的で、7つの研究領域を設定した研究領域制による教育を実施している。カリキュラムを専攻と研究領域の2軸で構成し、学位論文の審査の一部を研究領域が担当している。
- 大学院生が課程修了までに十分な研究倫理を習得することを促進するために、全ての博士前期課程・博士後期課程学生に対して、研究倫理教育の受講を義務化しており、修士学位論文提出のための必須要件としている（平成29年度入学生より）。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

## 10. 生物資源学部

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 ..... 26 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 ..... 27 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

### 〔判定〕 高い質にある

#### 〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

練習船「勢水丸」が教育関係共同利用拠点として継続認定され、三重大学だけでなく全国の大学に乗船の機会を提供し、令和元年度には、三重大学を除いて 13 法人、延べ 496 名が演習等に利用している。また、4 学科体制の設置や教育コースの再編による改組を行っている。さらに、令和元年度入学のすべての学生に対して、インターンシップを卒業要件としている。

#### 〔優れた点〕

- 三重大学の所有する練習船「勢水丸」は、令和 2 年度以降も「教育関係共同利用拠点」として継続認定され、三重大学だけでなく全国の大学に乗船の機会を提供し、令和元年度には、三重大学を除いて 13 法人、延べ 496 名が演習等に利用しており教育の機会を広げている。

#### 〔特色ある点〕

- すべての学生に対して令和元年度入学生よりインターンシップが卒業要件となっている。
- 平成 29 年度からは、生物圏生命化学科と海洋生物資源学科を設置し 4 学科体制にするとともに、既設の資源循環学科、共生環境学科の教育コースの再編も行い、教育の狙いを明確にするとともに受験生にも判りやすい組織体制とした。
- 毎学期、学生の授業アンケートに基づく教員評価を行い、優秀教員を表彰するとともに、優秀教員の講義を聴講し、教育向上のための FD の取組を行っている。また、これ以外の教育向上を目指した FD 活動を随時開催している。学部の FD 活動の実施は、FD 委員会が主催して実施して年間 12 回程度実施し、参加者は毎年延べ 300 名程度となっている。
- 社会人の学び直し、スキルアップ、専門能力向上を目的として、「生物資源学部特別教育プログラム」を立ち上げており、同プログラムでは、第 3 期中期目標期間以前から実施している「農学関連特別プログラム」、「森林関連特別プログラム」、「水産関連特別プログラム」に加え、令和元年度から「農業土木関連特別プログラム」を新たに設置し、計 4 プログラムとなり、より専門性に特化した内容となっている。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 平成 30 年に生物資源学部の卒業生に対して実施した、三重大学での教育・研究で身についたことに対するアンケートでは、28 項目の質問項目に対して、生物資源学部では 4 点満点中 3 点以上が 9 項目で、特に「人によっていろいろな意見をもっているという多様性を理解する力」は修得群が 96.4%、「専門知識や技術」や「どんな仕事にもねばり強く取り組む力」、「意欲的に物事に取り組む力」が 89.3%と高かった。
- 平成 30 年に実施した、生物資源学部卒業生が就職した事業所に対するアンケートの回答では、28 項目の質問項目に対して、4 点満点中 3 点以上が 23 項目、充足率が 80%以上のものが 25 項目、評価できないと回答した事業所数が 10%以下のものが 17 項目と、全体的に高い評価であった。

## 11. 生物資源学研究科

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 ..... 29 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 ..... 30 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

### 〔判定〕 高い質にある

#### 〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

スリヴィジャヤ大学（インドネシア）及びパジャジャラン大学（インドネシア）とのダブルディグリープログラムを実施している。同制度を利用した留学生に加えて両大学からの留学生が毎年入学し、これらを含めて、留学生の割合が12%～14%となっている。

#### 〔優れた点〕

- インドネシアのスリヴィジャヤ大学・パジャジャラン大学とのダブルディグリー修士プログラム（複数学位制度）を実施している。本制度を利用した留学生に対し、三重大学とインドネシアの大学双方の学位修得、異文化体験を通じた国際感覚の養成、海外体験を通じた実践的な語学能力の向上、キャンパスの国際化の加速を目的としたグローバルな視点での教育を行っている。その結果、生物資源学研究科におけるダブルディグリー学生は平成30年を除き1～3名の入学があり、これは留学生に占める割合の12%～14%となっている。また、これが呼び水となり、両校から留学生が毎年三重大学に入学している。

#### 〔特色ある点〕

- 令和元年度からは三重大学で初めてとなる民間企業との連携大学院を設置し、教育の充実を図っている。
- 生物資源学研究科の大学院博士前期課程では、平成28年に2名、平成29年に1名、平成30年に5名の海外派遣を行っている。協定校であるマレーシアトレンガヌ大学（マレーシア）における水産系ハンズオン実習を組み込んだ3週間のサマースクールを開催し、2年で14名の派遣を行い、令和2年度には更に2校での開催を計画している。このサマースクールでは、3週間にわたり水産実習、実習船を利用した乗船実習、ダイビング講習を全て英語で実施しており、専門科目に対応した実践的な語学教育を行っている。そうした協定校との積極的な交流の結果、研究科の留学生の割合は、博士前期課程で全学生数に対し13%～17%、博士後期課程では、41%～50%と高い比率を有するに至っている。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔優れた点〕

- 三重大学が平成 30 年に実施した、事業所に対して三重大学／三重大学大学院の教育・研究で身についたことに対するアンケートでは、28 項目の質問項目に対して、充足率が 80%以上のものが 25 項目であった。特に「事実や他者に対する誠実さ」や「基礎学力」は、平均値が 4 点満点中 3.5 点で、95%以上の事業所が修了生に身につけていると感じていることが示された。また、「基礎学力」の充足率は 98.8%とほとんどの修了生に対する事業所の評価が高かった。これは、おおむね生物資源学部の学部学生に対するアンケート結果と近い傾向を示している。この結果について、研究科の教務委員会等で各教員に周知しており、教育方法の見直し等に活用した。



## 12. 地域イノベーション学研究科

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 32 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 33 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 地域から世界に通じる新たなビジネスを創造できる人材を「地域創生イノベーター (Regional Revitalization Innovator)」(以下、「RRI」)と定義し、令和2年度より地域イノベーション学研究科博士前期課程に、RRI 養成のための新たな教育プログラム「地域創生イノベーター養成プログラム」を立ち上げた。本プログラムの教育対象は、地域イノベーション学研究科博士前期課程学生をはじめ、これまで科目等履修生として受け入れてきた社会人とし、修了者は地域イノベーション学研究科長が RRI として資格認定する制度とした。
- 学位審査の申請時に、博士前期課程においては「プロジェクト・マネジメントの素養に関する調査書(別紙様式4)」、博士後期課程においては「養成する人材像に対するプロジェクト・マネジメント能力調査書(別紙様式17)」の提出を求め、学位論文調査委員会において提出論文と併せて審査することとしている。

**分析項目Ⅱ 教育成果の状況****〔判定〕 相応の質にある****〔判断理由〕**

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

**〔特色ある点〕**

○ 地域イノベーション学研究科では、これまでに記したとおり社会人学生の入学を推進してきた。特に地域企業の経営者及び経営者層へのリカレント教育は、大学院教育を通じた経営者の意欲と能力を向上させ、地域企業の業績向上は地域経済の活性化を通じた若者の地域への留め置き効果が期待される。E 社代表取締役社長（三重県伊勢市）の事例では、地域イノベーション学研究科博士後期課程に入学後、家業である飲食業を合理的に運営することを思いつき、AIを活用した来客予測システムを研究テーマとしてソフトウェアを開発した。この結果、入学前に比べ売り上げは5倍以上、経營業種は1業種からシステム開発業を含めた6業種にまで急増した。N 社代表取締役社長（三重県伊勢市）の事例では、自身が二次創業したクラフトビール製造を発展させ、博士後期課程の研究テーマとして開発したビール酵母をもちいてクラフトビールを製造し、世界を代表する国際ビールコンペにおいて最高賞を受賞するに至った。この結果、大学院入学前に比べてビールの出荷量が約 3.5 倍にまで上昇した。平成 28 年 3 月に博士学位を取得した参考事例ではあるが、A 社代表取締役（三重県津市）の事例では、自身が第二創業したトマト栽培を博士後期課程の研究テーマとし、この研究成果も参考にしながら栽培技術の高度化と品種開発を行い、競争力を強化して日本を代表する農業法人へと成長させた。この結果、地域イノベーション学研究科入学前に比べて、令和元年度の売上高は約 150 倍（1,100 万円から 17 億円）、従業員数は約 40 倍（11 名から 470 名）に激増した。地域イノベーション学研究科博士後期課程を修了した社会人学生の活躍は全てが研究科の教育によるものではないが、研究科入学前と修了後に学生自身が経営する企業の業績が急拡大したことから、博士学位取得までに培った能力と高まったモチベーションが強い影響を与えたものであると言える。また、修了生が経営する企業には、地域イノベーション学研究科のインターンシップ研修に協力いただくとともに、既に三重大学や地域イノベーション学研究科学生が修了生の企業に採用され、就職している。さらに、地域イノベーション学研究科博士後期課程を修了した学生には非常勤講師やゲストスピーカーとして授業の一部を担当して頂くことにより、在学生の問題解決力とモチベーションを高めること

に大きく寄与して頂いている。以上のように、地域イノベーション学研究科の教育は学生の社会での活躍との間で複層的に極めて良い循環を生みだしていると言える。